令和２年度第１回　飛騨圏域地域医療構想等調整会議　主な質問・意見

番号	圏域	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
1	飛騨	議題3	急性期病床をさらに、県独自の重症急性期と地域急性期と実情にあった分け方をしたことは、すごくいいと思っている。今後、県が地域医療構想を進めるにあたり、それぞれの目標を出さないのではないかと思うが、当初、地域医療構想の必要病床数の中で、飛騨圏域は急性期病床を減らすとなっており、この目標に向かってということだが、いろいろと議論をしていると、急性期と言ってもいろいろな要素があり、この２つに分けた中で、目標値をもう一度見直す必要があると思うが、どうお考えか。	地域医療構想の必要病床数は国が計算式に基づき、全国一律に算定しており、県の地域医療構想上は目標値ではなく、あくまで参考値と明記しており、各病院が、今後どうしていくか考えていく上で、あるいは、この調整会議での参考値として活用いただき、目標とはしていない状況。その参考値から派生した定量的な基準も、今の急性期の状況の参考値として、今後も使いたいと思っている。その参考値を目標にするというのはちょっと。
2	飛騨	議題3	病床機能報告を提出する際に、地域包括ケア病床を回復期として報告したが、地域包括ケア病床は、急性期として届け出るのか、回復期として届け出るのか。	病床機能報告については、地域包括ケアだから必ず回復期ではなく、急性期や回復期等それぞれの病院でどの機能を持っているかにより、病院から報告いただくことになっている。地域包括ケアだから回復期と報告しなければいけないものではないので、それぞれの病院のご判断でお願いしたい。
3	飛騨	議題3	数値は目標でなく、あくまでも参考値と話があり、言い回しについてはいろいろあると思うが、たとえ参考値と言ったところで、国が一定のルールに基づいて出している数字なので、そこから大きく変えるのは、さすがにまずいと思っている。	この数値は目標値ではないが、参考にはさせていただく数値である。また、急性期が過剰で回復期が不足しているので、そちらは転換していく方向性といったことは、各医療機関さんでそのように考えながら進めていただきたい。
4	飛騨	議題3	例えば飛騨市民病院の方向性が、この会議で了承されたら、もうこれで飛騨市民病院に対していろんなことは言われずに済むのか。	国から要請されてる再検証の結果については、この調整会議で合意を諮り、国に報告することになって終わりだが、２０２５年に向けて、圏域全体をどうするのかという中で、それぞれがどうするのかというのは今後も残ると思う。
5	飛騨	議題3	これまで飛騨市民病院は自分たちで取り組んできた。この会議も一生懸命やってきた。そうしたら、突然発表された。基本は、住んでいる人たちがどう考えるかある。２市１村が集まり、この地域は医療資源に乏しい、このままではすぐ医療崩壊になると全国に発信された。だから住民が医療資源が乏しいと言っている。これはオーバーだというデータ。そこに問題がある。各病院は縮小し、いろいろ考えてやっている。それで、ベッド数が多いのではないかと、そのあたりを調整するのが一番大事で、一律にデータを出されても、このデータはあくまで国が集めたデータ。ビッグデータを個々に当てはめたら大きな間違い。住民の方々がどれがいいのか決めて頂かないと、どうにもこうにもならない。ただ、国が示した方向性は正しいとは思っている。だから今度はどうやっていくかである。方法論は住民が決めてもらう。自分たちの医療は自分たちで守る。飛騨市民は住民が一生懸命やっている。医師がいなくなって住民が一生懸命やっている。医療というのはやはりそこに住んでいる住民が作り出すものだと思っている。	
6	飛騨	議題3	国の方も統計的な処理をして一般化した上で出したデータが正しいとは思っていない。もう一度、ここで検証のし直しをしてくれと彼らは言っていると思う。飛騨市と高山市内、下呂とはまた全然違うと思う。それぞれの地域について地域の病院の先生方が一番自分たちの医療をどうするかご存じかと思うので、それを県庁に出して、県庁はそれを真摯に受け止めどうするか。国の統計データと、どの程度どんなところが違うのかをきちんと検証いただき、それを国にあげる。そういう作業がないと、ただ上から言われた全国的な統計処理だけで物事を話そうとすると、お叱りが出てくると思うので、細かく検証してはどうか。	
7	飛騨	議題3	特にコロナの課題があり、一割ほど入院患者が減っている。それが一過性なのか、全国的にも医療需要がコロナの部分はあっても、全体としての日常診療部分は、かなり減っていると感じている。これがひとつの基準になれば、また全体に医療需要が減ってくる形になる。今この時期に、将来を見越しての判断をすぐすべきか、どこの病院長も悩んでいるのではないかと思う。国がこう言っているからこうだとか、そういった考え方ではなくて、今の時期がどういう時期かも心に置き、対応を考えていくことが大切だと思う。	

令和２年度第１回　飛騨圏域地域医療構想等調整会議　主な質問・意見

番号	圏域	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
8	飛騨	議題3	飛騨モデルという全国に先駆けた、過疎地域の医療提供体制がどうあるべきかを示していただけるものと期待しながら今日まで来た。誰がグランドデザインを描き、この地域の医療提供体制をどう描いていくかを誰かがトータルコーディネートしていかないと、議論はまとまらないと思う。それをどういう形で、どうこの場で示して頂けるのか。もうそろそろ、現状を踏まえた一つの地域モデルを描いていただけるといいと思う。	ある程度まとめていく方向性が必要で、県と一緒になってご意見いただき、どうまとめていくか、地域で全く違うので、そこをしっかり県にご意見いただく。各病院の院長、それは公立だけでなく、私立の先生方も、この地域は他とは違うことをしっかり言っていただかないと、いつまで経っても県は分からないと思うし、国はもっと分からないと思う。（議長）
9	飛騨	議題3	総合医的に診療したり、専門性が高い分野については、近隣病院に送るなり、連携するなり、自動的に広い地域で、それぞれの地域分担でやっている。医者の方が患者のニーズに合わせて変わり、自分の専門外でも総合医的にやっている。飛騨を発信するとしたら、へき地地域を抱えていること。病床を増やすのは大変。病床を減らすのは明日でもできる。それなのに、将来を見越して今のうちに減らすというのがよく分からない。この先どうなるか分からない。豪雨の際は、地域住民が避難所が開いていないと病院に避難してきた。病院がダウンサイズしていたらどうなっていたか。災害のことも考えていない。どうして将来を見越して今のうちに減らすのか。今の住民はどうなるのか。	
10	飛騨	議題5	医師不足に関して、共有化という表現は、物のような言い方で失礼だが、各病院の医師というより、地域の医師という意識を持ってもらえるような形が一つあると感じている。小児科とか大学の方から地域でということなので、その先生方も地域での小児科医という意識が大変強い、協力体制がうまくいっているということに尽きる気がする。その他の診療科でもいろいろ交流するということも少しずつ始まっているので、地域の医師という気持ちが、共有されるといいと考えている。	
11	飛騨	議題5	コロナの関係で経営状況が厳しくなっており、新たな投資は厳しい状況。老朽化も喫緊の課題。さらに医師不足も厳しい状況。１病院では、なんともならない状況なので、協力して医師確保をしていきたいと思っている。急性期も非常に厳しく、二次医療圏の飛騨圏域の救命救急で３６５日２４時間対応するためには医師が必要。これがまた４年後の働き方改革により大学医局から、派遣が容易にならないことになると、救命救急センターが成り立たない状況にもなりかねないというのを非常に危惧している。昨年度、医師確保計画を県で策定していただいたので、何とかご対応いただきたいと思う。医療というのは、継続して、永続的にやらないとこの地域の方々のためにならないと思う。永続的にするためには何が必要かを真剣に考えないといけないが、民間病院だと経営も考えないといけないこともあり、行政にも認識いただきご協力いただけるとありがたい。	
12	飛騨	議題5	歴史的に高山は、この圏域の全部の患者さんを集めていた。それが今後は２つの病院がやっていけるのかが現実の問題となると思う。高山赤十字病院は、建物が老朽化し建て替えなければならない。今後それをどうしていくか。久美愛厚生病院は共通の地域のドクターとしてやっていきたい。下呂においては、開業医の先生全部含めて１つの病院として機能するようにやっている。そうしないと地域を守れない。ただ、どうしても専門分野も必要。今後あと２回くらいで結論出すのか。	飛騨市民さんの再検証の検討については、検証結果を出すが、調整会議全体の話に期限はない。
13	飛騨	議題5	基本的にはベッド数が多いと言われるが、これからは疾病構造が変わってくる。例えば、胃がんはもうこれからなくなっていく。肝臓がんもそう。そういう時代。今後、はっきりとここで高山の２つの病院で検討してもらわないとどうにもならない。これをやらないと、いつまでもベッド数が多いと言われる。だから２つの病院、高山赤十字病院と久美愛厚生病院、これは飛騨北部をずっと支えてきた病院、その２つをどう今後発展できるようにしていくかという議論をしてもらわないと。２病院をどうしていくか、高山市がやってくれているのだから、県も高山市と一緒にやっていただきたい。	

令和２年度第１回　飛騨圏域地域医療構想等調整会議　主な質問・意見

番号	圏域	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
14	飛騨	議題5	この会議の目的というか、以前は、地域の実情にあわせて、自主的にいろいろ考えてやってくれというようなお言葉をいただいたと思っているが、今回の飛騨市民の問題に関しても、検証という言葉は何なのか。検証だけやればいいのか。それとも、それ以上のものを要求されているのか。その言葉を、どう受け止めていいかよく分からないので、具体的に教えていただければありがたい。	国から求められているのは、この方向性で結果を出しなさいというところまでは求められておらず、地域の調整会議でしっかりと地域の関係者のみなさんで議論した上で、どういう結論になったのかを報告してくださいということ。一方で、県としては地域の実情に応じて、国の要請に関わらず、検討する方針は、今も変わっておらず、それはこの調整会議で検討していくということで、その点はそのように進めている。
15	飛騨	議題5	この会議において、地域としてその病院は必要であるという検証で構わない。それを結論として出しても問題なしということか。	そもそも国は、統廃合をしろと言っているわけではなく、再編統合というのは、近隣の病院との連携、そういった機能の役割分担等も含めて、将来に向けての検討であり、現状維持だからどうということではなく、方向性をどうするかを、合意いただければと考えている。
16	飛騨	議題5	飛騨市民病院がどうなるということが、飛騨圏域全体としてどれほどの影響があるのかというのは、非常に疑問に思う。飛騨地区の最北端の病院がダウンサイジングしても、たかだか数が知れている。この数百床の飛騨圏域の中でどうするかというのは、やはり高山をどうするかが一番大事だと思う。地域の医療も守れるところは守りたいと思う。高山赤十字病院、久美愛厚生病院がどうなるかが重要。我々の医療を後ろで支えて頂いているのが高山の医療なので、ここは非常に深刻な問題だと思っている。	飛騨市民病院の問題ではなくて、これは、へき地で人口がどんどん減っているところの病院代表として、日本中にきちんと発信していく。どういう対策をして、何をしていかなければいけないのかを、国の計画に対して文句を言う。そういう役割があると思っている。新聞では、外国の大学の医学部を卒業した人を日本でどんどん増やす。そういうやり方もあると言っていたが、どんな医者が入ってくるかも分からない時代が来ており、本当にしっかりと考えなければならない。もう一つは、大都会と離れた場所の都市で、それなりに重症者は必ずいるわけなので、それをどのように維持していくか。日本の医療体制からいうと、公的病院は行政から、かなりの支援をもらわないとできない診療報酬体系になっているので、そこはお金をいっぱい落としてどうやっていくかを、飛騨の人たちが県に、国に金を出せと言わないと、回っていかないと思う。そういう声をどう集めるか、検証していただきたいと思っている。（議長）